**本妙寺**

本妙寺は、熊本市西部の山にある日蓮宗の寺院です。1585年、初代熊本藩主・加藤清正（1562-1611）が父・加藤清忠（1526-1564）を偲んで大坂に建立したのが始まりです。その後、清正は寺院を熊本城内に移築し、清正の死後の1616年には現在の場所に移転しました。

仁王門は1920年に建てられたもので、当時の日本では珍しく斬新な素材であったコンクリート製です。道路からは長い石畳の小道が続いており、その先に本妙寺があります。建立当時の寺院は1877年の西南戦争で焼失し、現在の社殿は1884年に建てられたものです。小道に並ぶ他の社殿の多くは、本殿よりも古いものが多いです。

寺から加藤清正の墓へと山を登っていく石段は、胸突雁木（「胸に感じる階段」）という示唆に富む名前で呼ばれています。400〜500個の石灯籠を並べた中央帯の両側に、176段の階段が設けられています。階段を登った右手には、中門の手前に、基部に木製の下見板を貼った巨大な常夜灯が立っています。昔は、熊本城の天守閣から寺が見えるよう、夜間に灯されていました。

階段の上にある門をくぐると、石畳の中庭があり、そのすぐ後ろには、拝殿と本殿からなる霊廟があります。本殿には加藤清正の墓と並び、清正の死に際に切腹した2人の忠臣の墓があります。本殿は明治（1868–1912）初期に建てられたものですが、拝殿はその後何度か再建されています。明治時代になると、政府が仏教寺院と神社の分離を強制したため、加藤清正の神格化された魂（神）は、当時熊本城内にあった加藤神社に移されました。霊廟は熊本城を意識した作りになっています。本殿の頂部は、熊本城の2つの天守のうち、大きい方の天守と同じ高さになっています。

さらに山を300段登ると、1960年に設置された加藤清正像があります。これは長崎平和公園の平和祈念像を設計した彫刻家の北村西望（1884-1987）の作品です。